

陶磁器デザインアプリ「iroe」運用への支援

松本 奈緒子
佐賀県窯業技術センター

当センターでは、令和4年度に県内の陶磁器産地内で使用されている絵具の色見本とその色を用いたカラー・デザインや絵付け・デザインを行うことができるアプリケーション「iroe」を開発し、令和5年4月にリリースした。今年度はアプリ内の文様データの追加や機能の微修正、アップデートを行い、また、伊万里・有田焼伝統工芸士会や佐賀県陶磁器工業協同組合の協力を得て、実際にアプリを活用した商品開発の支援を行った。

Support for the project of the ceramic design app “iroe”

MATSUMOTO Naoko
Saga Ceramics Research Laboratory

In 2022, we developed the app "iroe," which allows you to create color designs and painting designs using color samples of paints used in ceramic production areas in Saga Prefecture, and It was released in April 2023. This year, we added pattern data within the app, made minor corrections to functions, and made updates. In addition, with the cooperation of the Imari-Aritayaki Traditional Craftsman's Association and the Saga Ceramics Industrial Association, we supported products development using the app.

1. はじめに

アプリケーション「iroe」は、佐賀県の伝統的な陶磁器産業において、上絵加飾製品の継承と発展、及び利便性の向上やデジタル化等を目指し、絵具のカラーチャートとその色で絵付け・デザインができるツール系アプリとして開発されたもので^①、令和5年4月にリリースされた。このアプリは、平成30年度に行った「陶磁器製品の配色デザインに関する研究」^②で製作したカラー・データベースを基にして、産地特有のカラー・バリエーションを持つ絵具の色を、デザイン作業や商談に気軽に活用できるよう、一般向けアプリとして開発したものであるが、特に絵付けの伝統や特色、強み、職人の手仕事の魅力や価値を伝えるためには、まず地元産地で積極的に活用していくことが必要である。このことから、当センターでは現在、この iroe アプリをツールとした産地内での運用を推進している。今回、アプリ内に搭載している伝統文様データの追加を行うとともに、産地内において、実際にアプリを活用した陶磁器の商品開発の支援を行ったのでその事例について報告する。

2. 伝統文様の追加

アプリの主な機能として、色見本コンテンツと、絵付けコ

ンテンツを搭載している。絵付けコンテンツでは、佐賀県陶磁器産地の伝統文様をスタンプにしてデザインに使用できる機能を持たせている。文様は、佐賀県立九州陶磁

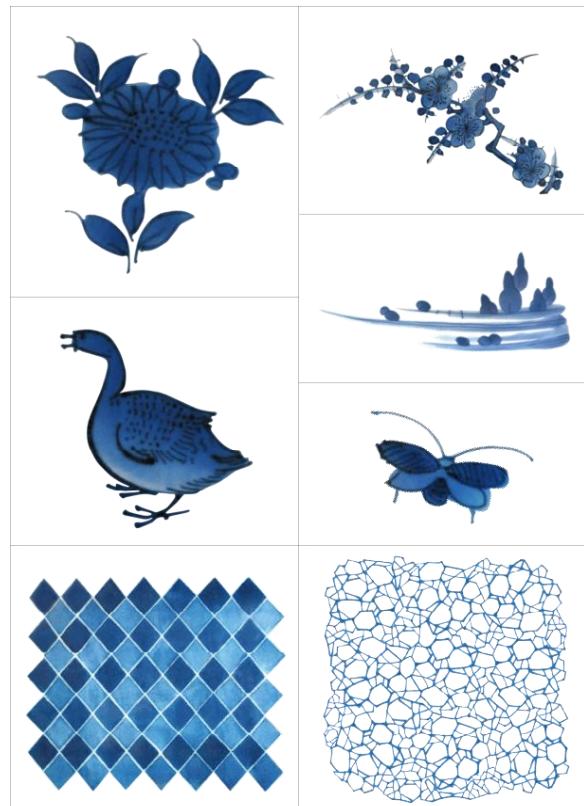


図1 追加した下絵の文様スタンプ。

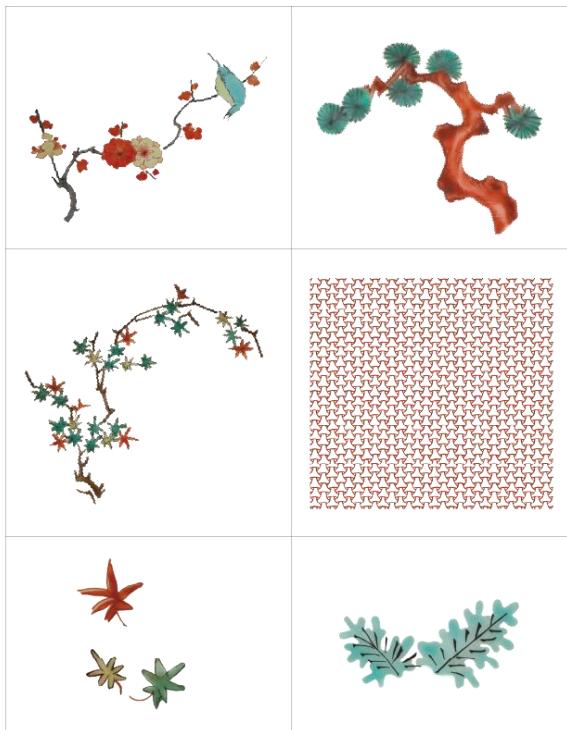


図2 追加した上絵の文様スタンプ。

文化館にご協力いただき、収蔵品の中から選択した作品を撮影し、画像データを編集しスタンプ文様として追加した。今年度は新たに伝統文様スタンプ計13種(下絵6種、上絵7種)を追加した(図1,2)。

3. アプリを活用した商品開発事例

3.1 伝統工芸士会による絵付け商品開発

一般のお客様から佐賀県陶磁器工業協同組合に対してiroe アプリを使用した商品制作依頼があり、その支援を行った。依頼の概要は以下の通り。

- ①数名のお客様に、iroe アプリを使用してオリジナル絵付けデザインを作成してもらう。
 - ②そのデザインを基に、1点ずつ伝統工芸士や絵付け職人が手描きで絵付けを行ない、作品完成後、お客様へお渡しする。
- 《備考》・iroe アプリを使用してデザインを行うのは、一般素人の方で、作製するアイテムはそば猪口形状を1人1点ずつとする。

3.2 作業工程と結果

そば猪口の生地は窯元A社の生地から提供され、手描きの絵付けは佐賀県陶磁器工業協同組合を通して各伝

統工芸士や窯元に依頼された。各デザインの絵付けの内容は、下絵付けのみのもの、上絵付のみのもの、下絵付けと上絵付けを両方含むデザインがあり、各絵柄の特徴や絵付けの種類等に合わせて担当が決まり、分担して絵付け作業や焼成工程が進められた。

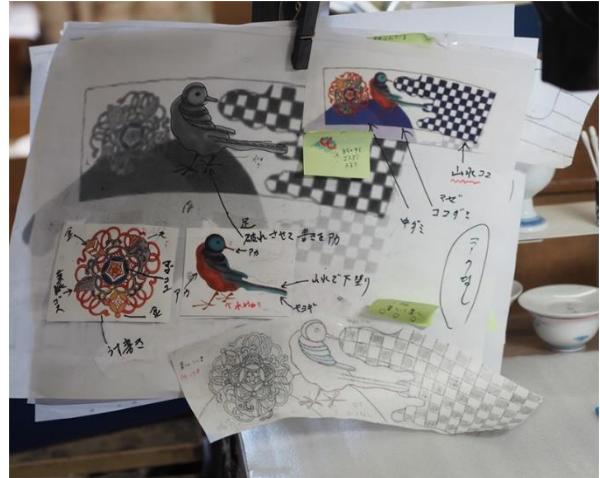


図3 デザイン指示図の一例(畠萬陶苑)。



図4 線書き後の生地

各デザインは、あくまで一般の方が短時間でデザインしたおおまかな図案であったため、それを基に各伝統工芸士や職人が全体の配置やバランス等を微調整して再図案化(図3)、その図案を基に職人による絵付け作業が行われた(図4,5)。素案は素人のデザインではあるが、伝統工芸士の技術や視点を通して完成したものは、手描きの味わいが感じられ完成度が高い1点物の成品に仕上がっている印象であった。完成品の例を図6,7に示す。全体のバランスに配慮し、手描きで絵柄を完成度高く仕上げることができる伝統工芸士や絵付け職人の技量が非常に活かされた結果となった。



図5 職人による絵付け作業の様子。



図6 完成品1.



図7 完成品2.

3.3 支援を行った感想と今後の課題

今回の支援において、各伝統工芸士や職人にそれぞれのデザイン作業を割り振る際に手間と時間を要してしまい、様々な依頼に対してスムーズに仕事を受け付けることができなかつた。この点は、作業を割り振るしくみや産地内の体制づくりの見直しが必要を感じた。また、アプリを使用し一般の方が自由に行なった絵付けデザインが、実際に手描きで描くには小さすぎたり複雑すぎたりする場合に、どのように対処するかという課題も出てきた。今回、産地内の支援は初めての試みであったが、産地内で本アプリを利用した事業化を今後も支援していくためには、それぞれの取り組みに対する状況等にあわせ、アプリの機能調整や機能強化を行い、作業における円滑なシステムを構築する必要があると感じた。

4.まとめ

この陶磁器産地の大きな財産である伝統文様や加飾技術、職人による手描きの技術等を継承し、さらに活かしていくことがアプリを開発した当初の目的の一つであった。今回、アプリを利用して職人による手描きの作品を制作する事例に取り組むことができ、改めて産地が保持している手仕事の価値や、量産製品から1点物まで広く対応できることの強みと魅力を実感する機会となつた。今後も引き続き iroe アプリを活用した産地の強みを活かすためのさらなる仕組みや体制作りを検討しながら、支援を行っていきたい。

参考文献

- 1) 松本奈緒子, 佐賀県窯業技術センター令和4年度研究報告書・支援事業報告書, 12-14 (2023).
- 2) 松本奈緒子他, 佐賀県窯業技術センター平成30年度研究報告書・支援事業報告書, 6-10 (2019).